

昭和五十八年度 研究所報告

一、組織

一、所長 北西 弘

一、主事 武田 武磨

一、研究所委員会 廣瀬 杲学長・福島光哉文学部長・花山大成事務局長・訓覇曄雄大学院文学研究科長・小野蓮明

短期大学部長・友田孝興学生部長・藤島建樹図書館長・高橋憲昭教授・寺川俊昭教授・長崎法潤
教授・山本唯一教授・新村祐一郎教授・藤田昭彦助教授

一、昭和五十八年度研究班

指定研究〈特定研究〉

◎研究名 真宗学事研究

研究課題 「真宗学事資料の研究」

代表者 学長 廣瀬 杲

研究員 大桑 斉（チーフ・助教授・日本仏教史学） 江上浄信（専任講師・真宗学） 片野道雄（助教授・仏

教学） 鈴木幹雄（助教授・倫理学） 若槻俊秀（助教授・中国文学） 北西 弘（所長・教授・日本仏
教史学） 武田武麿（主事・助教授・宗教学）

研究補助員 木場明志（助手・国史学） 経隆 優（博士課程修了生・真宗学） 井上 円、片山 伸、金石 忍、

熊木 剛、小島久佳、武田定光、畠山正信、深田虎雄、松尾直哉（以上博士課程在学中）

◎研究名 海外仏教研究

研究課題 「海外における仏教研究の文献・資料に関する研究」

代表者 学長 廣瀬 杲

研究員 長崎法潤（チーフ・教授・インド学） 加来一丸（助教授・フランス語） 寺川俊昭（教授・真宗学）

箕浦恵了（教授・西洋哲学） 安富信哉（専任講師・真宗学） 北西 弘（所長・教授・日本仏教史学）

武田武麿（主事・助教授・宗教学）

嘱託研究員 今井亮徳（開教使・在米） 今枝由郎（フランス国立科学センター研究員） 大河内了義（神戸大学教

授） 羽田信生（在米） リノ・ペリーニ（本学非常勤講師）

研究補助員 宮下晴輝（助手・仏教学） ロバート・ローズ（本学非常勤講師） 山野俊郎、加来雄之、一楽 真（以

上博士課程在学中）

指定研究〈委託研究〉

◎研究名

大藏經學術用語研究

研究課題

「日本撰述華嚴宗關係典籍における學術用語の研究」

代表者

学長 廣瀬 杲

研究員

古田和弘（チーフ・助教授・仏教学） 小川一乘（教授・仏教学） 鍵主良敬（教授・仏教学） 神戸和磨（助教授・真宗学） 木村宣彰（専任講師・仏教学） 福島光哉（教授・仏教学） 三桐慈海（教授・仏教学）

研究補助員

一色順心（助手・仏教学） 稲岡智賢（博士課程修了生・仏教学） 織田顕祐（博士課程在学中・仏教学） 大城邦義（博士課程修了生・真宗学）

一般研究〈共同研究〉

◎研究テーマ 「大谷大学所蔵西蔵藏外文献の歴史的・思想的位置づけに関する研究」

代表者

小川一乘教授

研究員

小川一乘（教授） 片野道雄（助教授）

嘱託研究員

ツルティム・ケサン（本学非常勤講師） 小谷信千代（助手）

研究補助員

兵藤一夫（博士課程在学中）（以上いずれも仏教学）

◎研究テーマ 「近代文学における仏教的諸相」

代表者 渡辺貞磨教授

研究員 渡辺貞磨(教授) 喜多川恒男(専任講師) 入部正純(専任講師) 石橋義秀(専任講師)

嘱託研究員 仲野良一(本学非常勤講師)(以上いずれも国文学)

◎研究テーマ 「外国語教育(学習)の思想」

代表者 岩見 至教授

研究員 岩見 至(教授・仏語学) 友田孝興(助教授・独文学) 市橋弘道(助教授・英語学) 禿 憲仁(専

任講師・独語学) 安富信哉(専任講師・真宗学)

一般研究(個人研究)

◎研究テーマ 「華厳教学に受容された起信論の思想的研究」

研究者 鍵主良敬教授

研究補助員 稲岡智賢(博士課程修了生・仏教学) 織田顕祐 藤谷信道 小島千佳(いずれも博士課程在学中)

◎研究テーマ 「日系アメリカ人の教育意識に関する研究」

研究者 田中圭治郎助教授

◎研究テーマ 「蓮宗宝鑑の研究」

研究者 安藤智信助教

嘱託研究員 大内文雄（専任講師・東洋史学）

一、「研究所報」の発刊

第七号

- 一、「真宗総合」への確認……………小川 一 乘
- 一、昭和五十八年度「指定研究」研究計画紹介
- 〈昭和五十七年度「指定研究」研究経過報告〉
- 一、近代における真宗の展開……………経 隆 優
- 一、海外における仏教研究の文献資料に関する研究……………宮 下 晴 輝
- 一、日本撰述華嚴宗関係典籍における学術用語の研究……………一 色 順 心
- 〈昭和五十七年度「一般研究」研究概要〉
- 一、大谷大学所蔵西蔵蔵外文献の歴史的・思想的位置づけに関する研究……………小 川 一 乘
- 一、外国語教育（学習）の思想……………岩 見 至
- 一、征服王朝期における信仰形態……………藤 島 建 樹
- 一、Abhidharmasamuccaya および周辺文献の用語研究……………桜 部 建

〈真宗総合研究・個人分担研究報告〉

一、大正デモクラシーと真宗……………鈴木幹雄

〈海外仏教研究・研究会報告要旨〉

一、アメリカにおける日本学の現状——特に中世の文化を中心として……………

Royall Tyler (ウイスロンシン大学東亜語学部助教授)

第八号

一、総括・「近代における真宗の展開」——「真宗学事研究」の発足に思う……………廣瀬 杲

〈昭和五十八年度「一般研究」研究内容報告(その一)〉

一、近代文学における仏教的諸相……………渡辺 貞磨

一、蓮宗宝鑑の研究……………安藤 智信

〈真宗学事研究・研究会報告〉

一、初期真宗学の思想史的意義——本願寺派の場合……………平田 厚志(龍谷大学専任講師)

〈海外仏教研究〉

一、CISHAN S 印象……………長崎 法潤

一、昭和五十九年度「一般研究」応募要領

第九号

一、研究所の役割……………長崎法潤

〈真宗学事研究・研究会報告〉

一、歎異抄文献の蒐集と意味……………西田真因（大谷専修学院指導）

〈海外仏教研究・研究会報告〉

1、Remarks on Recent Studies on the History of Early Buddhist Sects or Schools……………

Heinz Bechert（ゲッチンゲン大学教授）

〈海外仏教研究・海外資料収集報告〉

一、北米における仏教の方法……………小谷信千代

〈昭和五十八年度「一般研究」研究内容報告（その二）〉

一、華嚴教学に受容された起信論の思想的研究……………鍵主良敬

一、日系アメリカ人の教育意識に関する研究……………田中圭治郎

一、客員研究員の紹介

『現観莊嚴論』・大乘仏教の修道大系
Alexander Naughton（ウイスロンシン大学・本学研修員）

一、昭和五十九年度「一般研究」選考結果

三、「指定研究」の動向

◎真宗学事研究

「真宗学事資料の研究」

真宗総合研究所における昭和五十八年度の指定研究「真宗学事研究」は、前年度までをもって終結した「真宗総合研究」によって明確になってきたところの真宗大谷派の「学事」に関する基礎的な資料の収集と、その「学事」の展開を通観できる歴史記述の必要性という二つの問題を発展的に継承して組織されたのである。従って「真宗学事研究」のその研究目的は、近世における高倉学寮の成立から現在の大谷大学に至るまでの真宗大谷派の「学事」、つまり学寮・大学等の制度的側面と、そこにおける教学および諸教・諸思想の研究と教育とに関する資料の収集整理とその研究とにある。

五十八年度この研究班は、五名の研究員と若干名の研究補助員ならびに資料整理員によって構成され、その研究作業が進められた。研究作業の方法は、(一)その全体的な研究を進めていく方向と、(二)その資料の収集整理を進めていく方向との二つの方向をもって進められた。

そしてまず(一)の全体的な研究には研究員があたることとし、年度の始めに各研究員は各自の専門分野との関係から個別の研究テーマをもち、一年間それぞれ各自その研究を進めるというかたちでおこなわれた。またその各研究員の

それぞれの研究とは別に、研究員が真宗大谷派の「学事」に対する通史的な理解をより深めていくために、『大谷派学事史』（『続真宗大系』巻二十所収）を通読していく研究会を五回もつた。さらに、学外より特別に講師を招いた公開の研究會を二回開くなどして研究班全体の視野の拡大等を計った。このような研究活動を進めてきた結果、年度末までに各研究員は、近世・近代における真宗大谷派の「学事」に関する基礎的な知識をいよいよより詳細に会得することができた。加えて、年度の始めに各研究員が個別にもつた研究テーマそのものがいよいよ拡大深化し、「学事」の展開を研究していくうえでの問題点等が非常にはつきりとしてきたことである。

また一方、(二)の資料の収集整理には研究補助員と資料整理員とがあたることとし、その作業が進められた。この資料整理班は、主任研究員の指導のもとに、「真宗大谷派学事資料年表」（仮称）の作成を最終的な目標としてその作業を進めた。この「真宗大谷派学事資料年表」とは、高倉学寮成立以来の真宗大谷派の「学事」に関する項目についてのどのような資料があるかを年表形式にまとめていき、そして、それが真宗大谷派の「学事」に対する全体的な研究への手引きとなることをねらいとするものである。その作業は具体的に、基礎的資料のリストアップ、その収集、そして年表作成のためへの項目別・人物別の年譜カード作成を進めてきた。そして年度末までに、約二百数点におよぶ資料のリストアップと、たとえば、『高倉学寮諸制条』、『真宗大学寮講義年鑑』、『上首寮日記』、『貞享行願記』等々の約八十数点にもほる資料を収集し、そして約一万枚以上のカード化の作業を終えた。

「真宗学事研究」は、一年間概略このような研究活動を推進してきたことである。年度末までに開催された研究会の中で主なものは次の通りである。

〈研究會〉

一、五月三十一日……………研究員 大桑 斉

「宗学の草創期について」

一、六月二十七日……………龍谷大学助教授 平田厚志

「初期真宗学の思想史的意義」

一、十月十一日……………研究員 片野道雄

「学寮創設以来の仏教学の歩み」

一、十一月十四日……………研究員 江上浄信

「学寮における宗学研究」

一、十二月十二日……………大谷専修学院指導 西田真因

『『歎異抄』の文献研究』

一、十二月十九日……………研究員 若槻俊秀

「学寮と外学」

一、三月十四日……………研究員 鈴木幹雄

「宗学の固定期及び新進期について」

(昭和五十八年度研究補助員 経隆 優記)

◎海外仏教研究

「海外における仏教研究の文献資料に関する研究」

本研究は欧米の仏教学の現状を組織的に把握することを目的としている。特に北米（アメリカ・カナダ）に焦点を当てて研究を続けてきた。

〈研究会〉

活動の一環として月に一回、北米における仏教の事情や、仏教学の動向について詳しい研究者を招き、研究例会を開催した。講演者は仏教学専門の学者のみならず、仏教を哲学や文学の方面から解明しようと試みる研究者も含んだ。研究テーマに沿って、北米に関しての報告が主であったが、機会があるごとにヨーロッパにおける仏教学の実情をテーマとした研究例会も持つことができた。その研究例会は次のようなものであった。（英語での講演は題を英語であげる。）

一、一九八三年五月十七日、Royal Tyler（ウイスコンシン大学教授）

「アメリカにおける日本学の現状——特に中世文化を中心として——」

一、六月二十一日、大河内 了 義（神戸大学教授・嘱託研究員）

「オランダの宗教事情の瞥見」

一、六月二十九日 一 郷 正道 (京都産業大学教授)

「アメリカにおける仏教学の現状」

一、七月七日 Thomas Kasulis (ノースランド大学教授)

“Shin Buddhist Studies and America Today”

一、九月九日 Heinz Bechert (ゲッチンゲン大学教授)

“Remarks on Recent Studies on the History of Early Buddhist Sects or Schools”

一、十月二十六日 J.W. de Jong (オーストラリア国立大学教授)

“Recent Buddhist Studies 1973-1983”

(大谷大学仏教学会主催、研究所協賛)

一、十一月十二日 Minoru Kiyota (ウイスコンシン大学教授)

「アメリカにおける仏教学の動向——日本における仏教学との比較において——」

一、十一月二十九日 Paul Swanson (客員研究員)

「日本およびアメリカ仏教学私見」

一、十二月六日 小 谷 信千代 (本学助手)

「アメリカ仏教学の方法」

一、一月二十日 今 枝 由 郎 (CNRS 研究員・嘱託研究員)

「フランスにおける東洋学——研究教育機関の現状」

一、二月二十九日 Lino Bellini (本学非常勤講師・嘱託研究員)

「最近のカトリックの仏教への関心」

〈資料検討会〉

北米における仏教学研究の現状をさらに詳しく追求するために、研究員及び研究補助員によって、欧米で発表された論文についての検討をおこなう資料検討会が定期的におこなわれた。この資料検討会を通じて、現代のアメリカの仏教学界の関心はいかなる点にあるのか、また、どのような方法論を用いて研究が進められているのか、などの事柄について考えてきた。昨年度は次のような論文について、意見の交換をおこなうことができた。

一、五月二十四日 Alex Wayman, "No Time, Graet Time and Profane Time in Buddhism" (J. K. Kitagawa and C. H. Long eds., *Myths and Symbols*, 1969, pp. 47-62.)

報告者 Robert F. Rhodes (研究補助員)

二、六月七日 Luis O. Gómez, "Shinran's Faith and the Sacred Name of Amida" *Monumenta Nipponica*, 38-1, Spring 1983, pp. 73-84.

報告者 加来 雄之 (研究補助員)

三、六月十四日 右の続き。

四、六月二十八日 Thomas Kasulis, "Book Review of *Letters of Shinran: A Translation of the Matsusho*", *Philosophy East and West*, 31-2, April 1981, pp. 246-248.

報告者 山野 俊郎 (研究補助員)

五、七月五日 Thomas Kasulis, "The Kyoto School and the West," *The Eastern Buddhist*, 15-2, Autumn 1982, pp. 125-144.

報告者 山野俊郎

六、十一月十五日 Whalen Lai, "Nonduality of the Two Truths in Sinitic Madhyamika: Origin of the 'Third Truth,'" *Journal of the International Association of Buddhist Studies*, 2-2, 1979, pp. 45-65.

報告者 Robert F. Rhodes

七、十二月十三日 曾我量深 "Dharmakara Bodhisattva," Fredrick Franck ed., *The Buddha Eye*, 1982, pp. 221-231.

報告者 一楽 真 (研究補助員)

八、二月六日 Luis O. Gómez, "Expectations and Assertions: Perspectives for Growth and Adaptation in Buddhism," *The Eastern Buddhist*, 16-2, Autumn 1983, pp. 26-49.

報告者 萩原晃俊 (資料整理員)

〈ビブリオグラフィと資料収集〉

欧米の諸言語で発表された仏教学関係のビブリオグラフィの作成と、欧米の仏教学やそれに関連する研究を収集する資料の充実は、本研究の大きな課題である。英文の仏教研究のビブリオグラフィ作成は昨年度から始められたが、さらにそれを継続するかたちで、英文ビブリオグラフィをカードにとる作業がおこなわれた。その一部は『研

研究所紀要』創刊号に「Bibliography of English-language Works on Pure Land Buddhism, 1960 to Present」として発表された。コンピュータをつかったのビブリオグラフィ作成の可能性も検討した。また、本研究を遂行するためには、仏教学のみならず、東洋学、宗教学、哲学などの文献の充実が不可欠であるが、このため資料の完備に努め、六五〇冊の図書を集集することができた。

(昭和五十八年度研究補助員 ロバート・F・ローズ 記)

◎大藏經學術用語研究

「日本撰述華嚴宗關係典籍における學術用語の研究」

『大正新脩大藏經』統諸宗部第七二・七三・七四卷に所収の華嚴宗典籍(戒律關係を含む)における學術用語の研究は、本年度が最終年度となり昭和五九年二月末の総索引の出版をひかえて、綿密な計画のもとに主に出版の実務面での作業を継続した。七名の研究員の指導のもとに四名の研究補助員が統諸宗部二索引の校正作業を進め、また次に発足予定の委託研究、浄土教關係典籍における學術用語の研究の準備作業として、各々の典籍の性格や用語の選定に關して各構成員が問題点を出してそれらを検討しあつた。

華嚴宗關係典籍における學術用語の研究は、昭和五六・五七年度にわたつて文部省科学研究費補助金総合研究(A)の交付を受け、前年度末の時点において學術用語の研究をほぼ終了している。本年度は、その研究成果である統諸宗部二索引の出版に向けて、作成原稿の点検と校正作業を行なつた。大藏經索引は、検索者の各様の用途に應えるべく、

五十音索引・分類項目別索引・檢字索引(字画・四角號碼)から成り、また収録典籍の解題と凡例が付されている。続諸宗部二索引においては総ページ数六五五ページの中、五十音索引が五〇八ページ分という大部な割合を占めている。このことは蔵経所収の學術用語を可能なかぎり遺漏なきように多数採取したその表われである。本年六月に五十音索引の初校紙の一部が出版社より到着しそれ以来、本格的な校正作業を開始した。これまでの學術用語の分類研究・カードの五十音配列・原稿の浄写などの各段階においてその都度、内容上の点検を重ねてきたが、校正に臨むときにも、誤字脱字の修正に止まらず、五十音の配列に乱れがないか、學術用語に適切な分類研究がなされているか等について最終的な検討を加えたのである。この校正作業は翌年の二月までほとんど途切れなく続けられた。その校正紙は漢字と数字とでびっしりと埋めつくされたものであり、校正上の不統一を避けるために、各校正者間の連絡を緊密にして協議を重ねつつ作業を進めた。また数字一字でも見まちがえば、用語の檢索ができなくなる恐れがあるため、校正者の緊張感の持続と根氣とがためされるものであった。

分類項目別索引と檢字索引の原稿には、五十音索引のページを指示する数字が書き込まれることになる。原則として五十音索引が校了になるまでそれらの原稿にページ数を書き込むことはできない。五十音索引の各項目が校正段階において多少前後する場合があるからである。しかし時間的な制約もあり今回は、五十音索引のほぼ校了に近い三校紙を用いることにした。分類項目別索引の原稿にページ数を書き込む作業は、研究補助員四名だけでは三十数種(細目を含む)にもおよぶ分類原稿を掌握できず、多くの人員を必要とした。そこで常時、十数名の本学学生の協力を得ることになった。すなわち分類項目の「2戒律」から「29美術」までの分類原稿の束を一名の学生につき約三項目分を受持ち、全員が大テーブルを囲んでページ数を書き込むのである。研究補助員一名が五十音索引を第一ページ目か

ら項目名と分類名を一つ一つ読みあげてゆく。その声を聞きとりながら、学生が各自の受持った分類原稿に該当ページ数を書き込むのである。五〇八ページ目まで各項目を読み終えるまで約一週間、甚だ単調な作業が続いたが、本学学生の終始積極的な参加協力を得たことによって当初の計画どおり二月末に本索引が刊行されることとなった。

次に、浄土教関係典籍における学術用語の研究については、既報のごとく前年より少数の人員が学術用語の選定方法と浄土教典籍に固有な新たな問題点を検討してきた。本年度はこれを拡大して構成員全体の課題として検討会を開いた。続諸宗部第八三・八四巻に所収の浄土教典籍（日蓮宗関係典籍を含む）には、八世紀より十八世紀までの浄土教諸師の代表的な著作が網羅されている。大別すれば、法然房源空（一一三三―一二二二）を宗祖とする浄土宗の各派、親鸞（一一七三―一二六二）を宗祖とする真宗、江戸時代における融通念仏宗、珍海（二〇九二―一一五二）や源信（九四二―一〇一七）などの南都叡山の浄土教など、多岐にわたる諸典籍が含まれている。しかも『選択集』『教行信証』などの漢文典籍と、『黒谷上人和語灯録』『歎異抄』などの和文典籍とが、双方ほぼ同比率の割合で編入されている。このような漢文・和文の二種の諸典籍について学術用語の研究をなし漢語と和語の両項目が入りまじった索引を作成するという試みは、日本撰述であるがゆえの新たな問題となった。学術用語の分類研究や五十音配列においても問題の生ずることではあるが、本年度は用語の選定方法に限定して、漢語と和語を選定する場合にどのような基準を設けることができるかをまずもって検討した。浄土教典籍に特有な四十八願文を学術用語としてどう取り扱うか等の問題はあったものの、漢文典籍に関するかぎり従来の選定方法を踏襲して差し支えないことが判明した。和文典籍の場合には、和文に含まれる漢語だけを単純に抽出するという方法では和文としての文意を損うくらいが生ずる。しかしかといって一項目を長い文章で選定すれば、漢語との不調和をきたし検索も不便なものになる。そこで、単語または

熟語といった短かい用語として選定するという従来の原則に立って、和文にみられる特殊例の検討を行なうこととした。各典籍にわたる解読研究を進めつつ本年度は、とくに和文典籍における用語の選定方法についての検討を中心にして、数点の典籍に関しては用語選定の模範例とすべき原稿を作成することができた。これに基づいて全典籍についての選定とカード化および分類研究を進めたいと考えている。

(昭和五十八年度研究補助員 一色 順心 記)

執筆者紹介

(昭和五十八年度)

研究員	岩見至	本学教授	仏語学
研究員	安藤智信	本学助教授	東洋仏教史学
研究員	市橋弘道	本学助教授	英語学
研究員	田中圭治郎	本学助教授	教育学
研究員	友田孝興	本学助教授	独文学
研究員	禿憲仁	本学専任講師	独語学
嘱託研究員	安富信哉	本学専任講師	真宗学
研究補助員	兵藤一夫	本学特別研修員	仏教学
研究補助員	ロバート・F・ローズ (Robert F. Rhodes)	本学非常勤講師	仏教学
研究補助員	織田顕祐	仏教学
研究補助員	経隆優	真宗学